ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	L2	調査位置				北　緯	36 ° 34 ’ 08.1200 ”
発注機関	栃木県 真岡土木事務所			調査期間	2008-10-29 ～ 2008-10-30	東　経	140 ° 03 ’ 23.5700 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	107.19 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	10.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	106.79	0.40	0.40		表土 (SF)	黒灰		軟らかい	黒ボクによる耕作土。		
	106.39	0.40	0.80		軽石 (Pm)	暗赤褐			φ1mm位の粒子を残すも細粒化が進む。高含水比で軟質。		
2	105.29	1.10	1.90		粘土 (CH)	淡褐灰			凝灰質呈し非常に軟らかい。含水比高く、粘性上位。細砂分の混入が伺える。		
	104.89	0.40	2.30		砂 (S)	褐灰	密な		細～中砂を主体とする。稀に細礫φ5mm内外を点在する。		
3					砂礫 (GS)	褐灰	密な		亜円礫φ5～30mm主体として、礫間を中～粗砂により緩く充填している。 3.0～4.0m間にコア長4cm(推定φ100mm内外)の玉石含む。又、礫はφ5～20mmが比較的多い。 4.0～5.0mにかけて大礫φ40～60mmを混在する。 崩壊性有り。 5.0m付近より茶色増して、細粒土分を混入する。 亜円礫φ5～40mm主体、所々にφ50mm内外散在。 5.5m付近より細粒土分多量に含有して、6.3m付近まで粘土質砂礫状にある。 5.6m及び6.0m付近にコア長9cm位(φ220mm内外)の玉石を認める。 6.3m以深、暗緑灰色に変化、細粒土分減少。 8.0m付近より細粒土分は徐々に増加する。 φ5～30mmの亜円礫、最大φ70mm内外。 充填物は中～粗砂とやや多くの細粒土分で埋める。		10/29 1.50
4							非常に密な				
5						茶褐					
6							密な				
7						暗緑灰					
8											
9	97.99	6.90	9.20					非常に硬い			
					砂質粘土 (CHS)	淡灰	中ぐらい		細砂を含有して硬く締まる。下方へ次第に砂分を増す。		
10	97.19	0.80	10.00								
	96.74	0.45	10.45		砂 (S)	淡褐灰			細～中砂を主体とする。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.00					
1.58			00／58	0／58	0
2.15	7	10	13	30／30	30
2.45					
3.15	12	10	11	33／30	33
3.45					
4.15	15	17	18	50／30	50
4.45					
5.15	28	22	9	50／19	>50
5.34					
6.15	39	11	2	50／12	>50
6.27					
7.15	11	14	15	40／30	40
7.45					
8.15	11	12	13	36／30	36
8.45					
9.15	13	7	7	27／30	27
9.45					
10.15	7	10	10	27／30	27
10.45					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1.00				
1.30	L2-1	T	土粒子の密度試験・土の含水比試験・土の粒度試験・土の液性限界・塑性限界試験・土の圧密試験・土の一軸圧縮試験・土の段階載荷による圧密試験・土の一軸圧縮試験・地盤材料の工学的分類	
2.30	L2-2	T		
3.00				
4.00	L2-3	T		10/29
7.00				
8.00	L2-4	T	土粒子の密度試験・土の粒度試験・地盤材料の工学的分類	
				10/30